

# 教育の特色

## 地域で育てるグローバルな人材

「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもと、宮崎大学では、地域をフィールドにして培った課題解決能力と実践的な語学力をそなえ、グローバルな視野で主体的に活躍できる人材を育てようとしています。このような人材を育成するために、学部段階の教育では教養教育と専門教育とが連続して展開されるように学士課程一貫の教育カリキュラムを構築しています。

教養教育における「導入科目」は、「大学教育入門セミナー」、「情報・データリテラシー」、「英語」、「専門接続系」の区分で構成し、大学で学ぶための心構えや自己の所属する教育課程の理解、高度情報化時代に対応できる情報処理能力、外国語コミュニケーション能力と専門教育において必要とされる英語運用能力、及び専門教育において必要とされる知識・技能を育成します。

「課題発見科目」は、「データサイエンス系」、「人文・社会・芸術系」、「自然・生命・技術系」、「地域・国際・学際系」の区分で構成され、本学の第4期中期目標「特定の専攻分野を通して課題を設定して探究するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する」を達成するため、及びSTEAM教育プログラムを構築する上で中核となる科目群となっています。

「未来共創科目」は、「構想・デザイン系」と「協働・創造系」の区分で構成され、SPARCプログラムの中核となる科目群で、地域や世界を見る目や幅広く長期的な視点で社会課題に向き合う態度、及び地域をフィールドに様々なステークホルダーと連携したPBL（プロジェクトベースドラーニング）やアントレプレナーシップを通じて、学生同士だけではなく社会人や地域住民等と協働・共創する力、企業内・地域内の具体的な課題の解決策を提示する力を育成します。

## 異分野融合による教育

本学の教育の特色のひとつは、異なる分野の知識・視点・方法等を融合させることによって、新たな教育を展開している点にあります。平成28年度に新設された地域資源創成学部においては、マネジメントに関する専門知識と、社会・人文科学及び農学・工学分野

の利活用技術の基礎知識によって編成された異分野融合のカリキュラムが構築され、そこでは単に地域を教育研究のフィールドとするだけでなく、地域の人々との協働教育や全県規模でのインターンシップ教育も実施しています。

大学院では、研究科ごとに特徴ある高度専門職業人の養成をめざした教育プログラムが用意されており、特に博士課程においては、農学と工学が融合した農学工学総合研究科（博士後期課程）、医学と獣医学が融合した医学獣医学総合研究科（平成26年度からは修士課程を併設）が、それぞれ全国に先駆けて創設されました。教職大学院（教職実践開発専攻）では、各教科等の領域が融合したカリキュラムが編成されています。

このように、旧来の縦割りの学問分野による教育ではなく、これまで領域を異にしていた分野を新たに融合させることによって、相互の研究や教育の質を向上させ、なおかつ、これまで手の届きにくかった融合領域に関して新たな研究成果や教育効果をもたらしています。異分野融合による教育・研究の成果は各学部の専門教育にも着実に活かされ、グローバルな人材を地域で育てるという本学のスローガンを実質的に支えています。

## 自立性を育てる学習環境の整備

サークル活動やボランティア活動、海外研修留学など、正規のカリキュラム以外での活動を通してさまざまな資質・能力を磨くことや、自己と社会との関わりについて考えを深めることも大学教育の重要なねらいのひとつです。本学では、学生自身が大学や地域社会を活性化するための取組を企画運営することにより、企画力や実行力を身につけることを目的とした、「とっても元気！宮大チャレンジ・プログラム」という本学独自の事業を平成17年度から実施しており、これまで多くの成果を生み出してきました。

また、ラーニングコモンズ等の自主学習の環境を整備しており、それらを利用した学生たち自身による自主的・自発的な学習活動も増えています。このように、本学では、自ら考え、行動できる自立した人材を育成するために自由に学ぶという理念に支えられた「学びやすい環境」を準備できるように取り組んでいます。

## 本学における学士・大学院教育の概念図

